



インカレのタンデムスプリント優勝、中央大学チーム

シクリスムエコー No.162 2009年9月号



2009年ジュニア世界選手権大会 2



第29回アジア自転車競技選手権大会
第16回アジア・ジュニア自転車競技選手権 4



第65回全日本大学対抗選手権大会 8

シリーズひと 10

サイクルサッカー・ワールドカップ大分大会 11
国内自転車競技場の紹介 11



第26回シマノ鈴鹿国際ロードレース大会 12
アンチドーピングについての基礎知識 13
加盟団体だより 13
競技大会結果 14
シリーズひと 15
各国際大会 日本代表選手団 15/16
日本新記録 16
連盟の動き 16



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>

2009年ジュニア世界選手権大会

ポイントレース男女ともにメダル獲得!



8月7日～15日まで、ロシア・モスクワにて2009年世界ジュニア自転車競技選手権(トラック・ロード)が開催された。

【ロードレース】

タイムトライアルは女子12.9km、男子25.8kmで行われた。日本からは上野みなみ(青森・八戸工業)が出場。24位であったがアクシデントがなければ上位も狙えたのではないかと見られる。

個人ロードレースは、競技場に隣接するサーキットコースとスタート・フィニッシュ地点である直線道路を含む13.5kmを、女子は6周、男子10周で行われ、男子に黒枝士揮(大分・日出場谷)が163名、約50カ国の参加選手。1周目、落車に遭遇し、5周完了時に周回遅れとなり無念のリタイヤとなった。

4～5mの幅員に10名もの選手が並び、先頭集団は登りをアウターギア、下りは時速80kmを超えるスピードで走りぬく。また、ロードは勿論の事、トラックレースについてもパワー計測器を装着している選手が目立ち始めた。トップ選手のデータは公開されており、レース後解析をすればおよそ順位が想定できる。日本選手はトレーニングやレースにおいて負荷のかけ方が足りないようである。

【トラックレース】

大会は2km個人追抜競走予選から始まった。上野は順調にペースを上

げたが2分37秒781であった。女子500mTTは前田佳代乃(兵庫・鹿屋体育大)が1位通過、後半に失速し5位となったが36秒111の日本ジュニア新記録を出した。男子チーム・スプリントは伊藤裕貴(三重・朝明高校)、末木浩二(山梨・甲府工業)、窓場千加頼(京都・向陽高)が日本ジュニア新まであと1歩の好タイムをマーク。それでも予選9位と壁は厚い。

19時55分からポイントレースが行われた。元砂勇雪(奈良・榛生昇陽)が1位、元砂はレース全体を見渡せる余裕すら見せていた。予選がないため各選手の探り合いの中、スローペー

スにより得点分散する。4回目に5点、7回目に2点、最終ポイント3点を取り、着順差で2位となり銀メダルを獲得した。

3km個人追抜競走は矢野智哉(岐阜・岐南工業)が3分37秒257で37位、元砂も3分39秒735で43位に終わってしまった。予選1位はオーストラリア選手で3分15秒台の驚異的な世界記録を樹立した。男子ケイリンは予選3組に出場した末木浩二(山梨・甲府工業)、6組出場の横山尚則(茨城・取手一高)は自らレースをリードできずに敗者復活戦へ。それぞれ敗者復活戦は自ら先行したが、外国選手のパワーに太刀打ちが出来なかった。

男子スクラッチには木下智裕(神奈川・関東学院六浦)が1位、積極的に中盤、逃げを試みるが決まらず、最終周回で木下はインに詰まってしまう12位。チームパーシュートはベスト4に残るには、4分12秒台がボーダーラインである。54×15、あるいは48×13のハイレスオを見事に回す。更に決勝ではロシアチームが4分04秒646の世界記録。女子スプリント予選は前田が12秒256で21位通過するが、予選トップタイムが11秒093のジュニア世界記録。1回戦で中国選手に追い込まれ敗退。女子も48×14は平気で踏みこなす。

1kmタイムトライアルで野上侑矢(岡山・岡山工業)は1分06秒908で18位。窓場は1分07秒765で



ポイントレースの元砂(中央下)

23位に終わった。女子スクラッチは7.5kmの決勝である。上野は残り5周で単独の逃げに入るが、ラスト半周で捉ってしまい16位に終わった。男子スプリント予選は、末木が11秒051で43位、窓場が10秒646で34位。伊藤が10秒940で42位であった。予選通過24位が10秒583と大変厳しい。エリートと変わらぬ体格で50×14を高回転で回す。

女子ケイリン1回戦に出場した前田は7名混戦の中、5着であった。敗復では積極的なレースを見せるが力及ばず4着で涙をのんだ。女子ポイントレースに出場した上野は51×15にギアを上げ、2回目のポイントで単独で逃げを試み3点。続いて1点、3点と点数を重ねる。9回目のポイントを単独で取りに行き5点計12点で見事銅メダルを獲得した。(コーチ 折本裕樹)

【競技結果】

2009年ジュニア世界選手権大会
(2009/8/7-15 ロシア・モスクワ)

男子個人ロードレース (135km)

1	STUYVEN Jasper BEL	3:25:28
2	DEMARE Arnaud FRA	3:25:28
3	HALLER Marco AUT	3:25:28
	黒枝 士揮 大分 日出暁谷高校	DNF

女子個人タイムトライアル (12.9km)

1	SOLOVEY Canna UKR	17:39.43
2	FERRAND PREVOT Pauline FRA	18:20.57
3	OSHURKOVA Elizaveta UKR	18:28.46
24	上野みなみ 青森 八戸工高	19:23.97

男子スプリント

1	WEBSTER Sam NZL	
2	BÖTTICHER Stefan GER	
3	TAMAYO SAAVEDRA C. Leandro COL	
34	窓場千加頼 京都 向陽高校	予選敗退

42	伊藤 裕貴 三重 朝明高校	予選敗退
43	末木 浩二 山梨 甲府工業高	予選敗退

男子1kmタイムトライアル

1	ZHURKIN Nikolay RUS	1:03.060
2	PAOLI Loris ITA	1:03.078
3	MAKSEL Krzysztof POL	1:03.500
18	野上 侑矢 岡山 岡山工高	1:06.908
23	窓場千加頼 京都 向陽高校	1:07.765

男子ケイリン

1	WEBSTER Sam NZL	
2	GASPARRINI Rino ITA	
3	REINELT Alexander GER	
13	末木 浩二 山梨 甲府工業高	1回戦敗退
29	横山 尚則 茨城 取手第一高	1回戦敗退

男子3km個人追抜競走

1	HEPBURN Michael AUS	3:15.586
2	KUPERASOV Konstantin RUS	3:28.116
3	SAVITSKIY Ivan RUS	3:18.790
37	矢野 智哉 岐阜 岐南工高	3:37.257
43	元砂 勇雪 奈良 榛生昇陽	3:39.735

男子スクラッチ (10km)

1	SONDA Dario ITA	
2	GREVE Matias DEN	
3	OTHMAN Muhd.Adiq Husainie MAS	
12	木下 智裕 神奈川 関東学院六浦高校	

男子ポイントレース (24km)

1	LANDER Sebastian DEN	12p
2	元砂 勇雪 奈良 榛生昇陽高校	10p



3	ZUBOV Matvey RUS	10p
---	------------------	-----

男子チームスプリント

1	New Zealand NZL	1:00.236
2	Germany GER	1:00.955

3	Poland POL	1:00.888
9	日本 伊藤・末木・窓場	1:02.987

女子500mタイムトライアル

1	ZHONG Tianshi CHN	35.561
2	JAMES Rebecca Angharad GBR	35.784
3	MONTAUBAN Olivia FRA	35.874
5	前田佳代乃 兵庫 鹿屋体育大	36.111

女子スプリント

1	JAMES Rebecca Angharad GBR	
2	GNIDENKO Ekaterina RUS	
3	ZHONG Tianshi CHN	
21	前田佳代乃 兵庫 鹿屋体育大学	

女子ケイリン

1	JAMES Rebecca Angharad GBR	
2	GNIDENKO Ekaterina RUS	
3	EDMONSON Annette AUS	
16	前田佳代乃 兵庫 鹿屋体育大学	

女子2km個人追抜競走

1	ANDERSON Michaela AUS	2:26.282
2	CURE Amy AUS	2:27.207
3	SOLOVEY Hanna UKR	2:27.858
26	上野みなみ 青森 八戸工高	2:37.781

女子スクラッチ (7.33km)

1	CURE Amy AUS	
2	ZALESKA Lucie CZE	
3	SOSENKO Aleksandra LTU	
16	上野みなみ 青森 八戸工業高校	

女子ポイントレース (20km)

1	DUNN Megan AUS	29p
2	CECCHINI Elena ITA	13p
3	上野みなみ 青森 八戸工業高校	12p



日本航空

Dream Skyward. JAL

世界の空でお逢いしましょう。



www.jal.co.jp

第29回アジア自転車競技選手権大会

第16回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会



エリート・トラックレース のレポート (阿部良二)

トラックレースは8月14日から16日までインドネシア・東カリマンタン・テンガロン競技場で、25の国と地域が参加して開催された。このバンクは250m屋根付き、最大斜度35度、コンクリート製。走路は凹凸が非常にあり記録は期待できない。屋根付きではあるが、雨漏りのため2度ほどレースは中断した。日本選手は男子は短距離4名、中長距離5名、女子は2名が参加した。

14日(初日)まず女子500mTTから始まり、石井が39秒240で8位。優勝は36秒207の中国のゴン・ジンジ。2位は香港のリーで36秒659、彼女はCCC修善寺で17歳から学び育ててきた選手である。

ポイントレース男子の盛は各国選手にマークされる中、積極的にレースをコントロールしたが、最終ゴール2着で71点に終わり1着ゴールのトイチェフ(ウズベキスタン)の74点に3点届かず2位。

女子スプリントでは、石井が12秒554の7位のタイムで予選通過するも、1/4決勝で中国のゼン・ルルに敗れ6位。3km個人追抜は、和田見が4分03秒523の2位のタイムで決勝へ進出し、決勝では中国の選手に負けて2位。

男子団体追抜の窪木・伊藤・佐々木・巖田は4分35秒107で5位。優勝は中国チームでタイムは4分22秒290。

男子チームスプリントの深谷・柴崎・浅井は、予選を48秒456で4位通過した。このスタートで対戦相手の発走台が撤去されず、これに浅井の左手が接触したが幸いに落車せず。3-4位決定戦では中国と対戦し、敗れ48秒490で4位。優勝は47秒580のマレーシア。

ケイリン予選では、深谷は先行しようとするもアワン(マレーシア)に合わされ、前に出る事が出来ずに終わった。渡邊は先行し1着で決勝へ進出し、決勝も前受けから最終周回4番手を確保し、まくりで快勝。

15日(2日目)、ケイリン女子決勝に出場した石井は、前受けから中国選手の2番手を確保しそのままゴールして2位。

男子スプリント200mTTは、1位アワン10秒895、2位渡邊10秒930、6位柴崎11秒161で予選は通過したが1/4決勝で柴崎は中国のバオに敗れ、5~8位決定戦に回り逃げ切り5位。一方渡邊はスプリント1/2決勝で、柴崎を破り勝ち上がってきたバオと対戦し2-1で勝ち、決勝でアワンと対戦する。

女子ポイントレースは和田見と石井が出場し、逃げも無いままゴールまであと5周の2コーナー過ぎに前方集団で落車が発生し、3名だけを残し全員が落車。その時点の持ち点で着順が決定した。石井が10点で3位、和田見が2点で9位(2人とも軽症)。

スクラッチ男子は窪木5位、盛6位、スクラッチ女子の和田見は11位。オムニウム男子は佐々木が健闘し3位スクラッチ1位、3km3分38秒856で5位、1km1分10秒399で4位、ポイント2位、200mTTは11秒717で5位)。

16日(3日目)、スプリント決勝はアワンと渡邊の対戦で、1本目はアワンが先行逃げ切り、2本目は渡邊が先行するもアワンに追い込まれ2位確定。

マディソンは伊藤・盛が出場した。伊藤は今回が初マディソンであったが健闘し、1ラップして2位。優勝は2ラップした香港。



ケイリン優勝の渡邊

1kmは深谷が1分07秒831で5位。優勝は中国ハン・タオで1分04秒910。2位は世界選でも上位入賞しているテイシン(マレーシア)1分05秒759。

今回の優勝はケイリンのみ、2位5種目、3位2種目であった。タイム的にはあまり特筆するものは無い。しかし予想された時間の遅れや、食生活、環境の違いなど、海外レースならではの経験は積んだと思う。出したタイム、成績は謙虚に認め欠点は克服するしかない。今の環境の中でまずはアジアを征し、次に世界に繋げるしかない。特に短距離陣は競輪競争の合間に参加しなければならないというこの環境を受け入れ、しっかりと目標を見据えて頑張るしかない。これには今迄以上に関係者の理解と協力が必要となる。(強化コーチ 阿部 良二)

ロードレースのレポート(高橋松吉)

男子ロードレース(8月15日)

朝方降っていた雨も上がり少しは涼しさも感じられたが、日が差しだすと一気に気温が上がり選手を苦しめる。大会コースは25.4km×6周回=152.4kmで行われ、73名が参加。

30分遅れで気の緩んだスタートとなったが、スタートから6km地点の上り坂で、清水都貴を含む9名の選手が集団から抜け出し、序盤から積極的な逃げのレース展開となる。

2周回終了、タイム差3分となった所で後続集団からアタックが始まり、活性化した集団のペースが上がる。それまで全く動きのなかったカザフが前方に位置し、勝負所となった上り坂のポイントでアタック、集団が1列棒状となり大きく分断される。勢いに乗ったメイン集団は、清水を含むトップ集団を吸収し、そのままトップグループが入れ替わるレース展開で逃げていた清水は第2集団に下がる。メイン集団には佐野が入っているが、清水と吉田は第2集団で追走。嵐田は大きく遅れたため、個人タイムトライアル出場に力を温存し、途中リタイアした。

3周終了前に第2集団がメイン集団に復帰。逃げていた3選手もメイン集団に吸収され一つの集団なる。

4周目に入り再び上り坂ポイントで、カザフスタンが猛烈なアタック。清水、吉田が集団から遅れ、佐野が辛うじてメイン集団に食らいつくが、折り返しの上り坂でVinokurov、Fofonov

(以上カザフ)、Wong Kam Po(ホンコン)の3選手が集団から抜け出し逃げる。第2グループ佐野を含む追走グループは7名で、先頭が直ぐ前に見えるも徐々に引き離される。ラスト2周で後続から4名の追走選手が追い付いて来て、第2集団は11名となった。

5周目に入り逃げているトップ3選手の戦いは始まっていた。2対1の戦いは、カザフが交代でアタック。Fofonovが最初に独走態勢に入り、続いてVinokurovがWongを振り切り、カザフ勢が独走に成功。同時にメイン集団からIglinskiy(カザフ)が単独でアタックし、集団から抜け出す。直ぐにAskari(イラン)、佐野が追走しメイン集団から飛び出す。振り切られたWongにIglinskiyが追いつき続いて佐野、Askariが追いつき4名になる。

ラスト1km、Tuychiev(ウズベキ)、Mahawong(タイ)も追い付き、6名となったメイン集団は3着争いのゴール勝負となった。ゴール勝負3着でゴールした佐野は健闘したものの5位。清水、吉田、嵐田はリタイア。

表彰台を独占したカザフの圧倒的な力を見せつけられたレース展開に、ただただ脱帽するだけであった。今回エースである清水がフランスからの移動中に自転車紛失。自転車は代車で対応出来たが、紛失した自転車袋にシューズを入れてあったため、クリートペダルにアップシューズで走る事になった。シューズとヘルメットは自分で持ち歩くことが鉄則で、初歩的なミスであり悔いの残る大会であった。

女子ロードレース(8月16日)

男子と同じコースを4周回する101.6km。朝から蒸し暑く昨日よりも高温多湿となり、動かなくても汗が出てくる中、39名の選手がスタートした。

スタート後3km地点でDnhina(インドネシア)がアタック、続いてMonrudee(タイ)もアタックし2名が逃げる展開となる。後続集団は大きな動きもなく淡々と走る中、2周目に

入り西が上り坂でアタック、集団のペースを上げる。頂上で西を含む3名の選手が集団から抜け出す。

後続の追上げが厳しく、平坦に入り直ぐに吸収されてしまうが、再び上り坂でペースを上げると、西を含み中国、カザフの3選手が集団から抜け出し、逃げていた2名の選手を吸収。そのまま集団を引き離し逃げるが、平坦折り返し地点で中国のKerongがアタック、独走態勢となり逃げ切りを図る。

立ち上がり遅れてしまった西とカザフは、後続の選手に追い付かれ6名の第2グループ。第3グループに取り残されてしまった萩原麻由子は、明日の個人タイムトライアルに勝負をかけることにし力を温存させた。

西を含む第2グループはトップを追うことをあきらめたのか、牽制気味の走りとなりそのまま集団ゴール勝負となった。レース巧者の台湾選手をマークするように指示するが、ゴール前逆にマークされ先頭に追い出されてしまい、自力勝負状態でスパートせざるを得なくなった西は4着でゴールし5位に終わった。優勝は独走逃げきりでKerong。萩原は第3集団でゴールし15位、悔いの残るレースをしてしまったことを悔やんでいた。

個人タイムトライアル(8月17日)

男子ジュニア(20.4km)

ロード3日目の個人タイムトライアル。朝9時スタートの男子ジュニアは、ロードコースの上り坂を無くした1周20.4kmで行われた。

山本・笠原の二人ともタイムトライアルの経験が少ないため、コース取りと横風への対応などを指導。山本は前半やや向かい風だが40km/h以上のペースをキープ。後半の追い込みに賭けるが思うように上がらず27分49秒



女子個人ロードレースのスタート

56で7位。笠原も同じく後半のペースが上がらず28分21秒56の8位でゴール。優勝はCheung (ホンコン) 26分32秒60。

女子エリート (20.4km)

男子ジュニアと同じ距離で行われ、萩原は最終スタートで有利な展開だったが、スタートからペースに乗らない。折り返し、追い風で若干ペースを持ち直したが、思った以上に苦しく30分32秒04で5位に終わった。優勝はTang (中国)で28分32秒30。

男子エリート (40.8km)

男子エリートはコースを2周。タイムトライアルの得意な嶋田、佐野は共に上位を狙いスタート。1組目でスタートした佐野は全般的に平均した走りの後半頑張り、1組3位で2組目の結果を待つ。2組目でスタートした嶋田は、佐野の前半10kmのタイムから20秒も遅く、全く走れず苦しんで終わった。佐野は52分30秒89で結果6位。嶋田は54分33秒07で11位となった。優勝はVinokurov (カザフ) で49分18秒87。平均は49.64km/hだった。

まとめ

今大会に参加した選手は、個人ロード及び個人タイムトライアル共に持てる力を十分に発揮し、悔いのない戦いだったと思う、しかしながら表彰台を逃したことは、まだまだ力不足でありトレーニングの強化が望まれるところであり、非常に残念であり悔しい思いだった。今後十分なトレーニングが出来るよう、強化合宿等で選手の強化と意識の向上を図って行くことが、重要な課題である。

(強化コーチ 高橋 松吉)

ジュニアのレポート (山本宏恒)

ジュニア第1日目

レースは17日からスタート。個人タイムトライアルに山本と笠原が出場。山本は1位から1分17秒差を付けられて7位、笠原は8位だった。

午後7時からケイリン予選が行われ、1組で木村が予選を3位通過。2組の坂本は先行することができず予選5位。出場選手の関係で敗者復活戦は実施されなかった。

チームスプリントではインターハイ優勝メンバーの坂本と木村を1走、2走に、1kmTTで実力のある和田を3走にして挑んだ。スタートから積極的なレース運びを見せ、50秒413をマーク。

韓国の49秒613を上回れなかったが、2位で決勝進出を果たした。

ジュニア第2日目

午前中に個人ロードレースが行われ、笠原が3位でメダルを獲得。山本は8位、野口は17位だった。

午後からのポイントレースには個人タイムトライアル同様に、山本と笠原が出場。3種目となった2人だが、レース序盤から山本が飛び出し一人逃げて成功、笠原はメイン集団をコントロールした。山本は他国の選手2人とともに1周回をラップし、42点を奪い初の金メダルを獲得。笠原は8位に終わった。山本のスタミナには他国の選手も驚愕させられた。

スプリント予選はバンクの特徴をつかめなかったが、和田が3位、木村が5位でともに予選を通過した。1/4決勝では和田、木村ともに勝利を収め1/2決勝に進んだ。

ケイリン決勝に出場した木村はバンクの状態から先行策を狙ったがペーサーの後ろがとれず、後方からのかましとなる展開。韓国、マレーシアの選手にうまく交わされメダルに後一歩およばず4位となった。

チームスプリント決勝は1、2走でやりリードを奪ったが、対戦相手・韓国の3走が強く、韓国の48秒967に対し日本は50秒114で、惜しくも銀メダルとなった。

ジュニア第3日目

団体追抜予選(笠原、山本、野口、野村)は、足合わせができないままでの出走となった。日本はチームワークの良い走りを見せ、3位で決定戦に進出した。順位決定戦では笠原と野口がスクラッチ決勝に出場し、メダルを狙うため、野口に代えて坂本を起用。結果、予選より1秒836タイムを落とし4位になった。

スプリント1/2決勝は和田、木村とともに韓国選手と対戦。2人とも3本目までもつれる熱戦を演じ、和田が相手選手の反則により決勝に進出、木村は3位決定戦に回った。決勝は和田が発熱するアクシデントに見舞われ、本人の意向で強行出場したが惜しくも銀メダル。3位決定戦の木村は、相手選手の反則行為で3本目までもつれたが4位に終わった。

スクラッチ決勝には笠原、野口の2選手が出場。2人とも集団内で走行、1選手が抜け出し1周回をラップ。日本選手は2位狙いのゴール勝負となり、

笠原が積極的に先行し銀メダルを獲得、野口は5位だった。

ジュニア第4日目

個人追抜競走予選には野村が挑んだ。当初、オムニウムにエントリーしていたが、出場選手が少なく実施されなかったため、野村にとっては最終種目となった。野村にはペース配分を考えて走るように指示。ガタガタなバンクに足を使わされ、自己ベストには及ばなかったが3分41秒517で3位決定戦に。順位決定戦では相手の様子を伺いながらの走行でタイムは落としたが銅メダルを獲得した。

1kmタイムトライアルには和田がエントリーしていたが、体調不良のため坂本を起用。スタートは積極的に出たが後半に失速、1分12秒367と平凡なタイムに終わった。

大会総括

今回のアジア選手権では、まず日本のように整備された競技場ばかりでないことを痛感。また、タイムスケジュール通りに運営されず、選手のモチベーション維持に少なからず影響がでた。海外のレースでは多いことだが、今回も自己体調管理のできない選手がでて、2選手が発熱などの症状に遭ったことは反省材料として残った。

環境的には日本選手はメカ、移動、宿舎など様々な面で恵まれており、選手たちはそのことを実感しなければならぬ。どんな状況や環境でも力を発揮することができなければ国際大会で勝てないことを強く思う。

(ジュニア強化スタッフ 山本 宏恒)

【競技結果】

第29回アジア自転車競技選手権大会 (2009/8/14-17 インドネシア・カマタ)

男子個人ロードレース (152.4km)

1	FOFONOV Dmitriy KAZ	3:44:38
2	VINOKUROV Alexandr KAZ	3:46:46
3	IGLINSKIY Valentin KAZ	3:49:16
5	佐野 淳哉 埼玉 NIPPO	3:49:18
	清水 都貴 埼玉 EQA	DNF
	嶋田 義明 埼玉 BSアスカ	DNF
	吉田 隼人 奈良 鹿屋体育大学	DNF

男子個人タイムトライアル (40.8km)

1	VINOKUROV Alexandr KAZ	49:18.87
2	MIZUROV Andrey KAZ	51:01.80
3	WACKER Eugen KGZ	51:41.37
6	佐野 淳哉 埼玉 NIPPO	52:30.89
11	嶋田 義明 埼玉 BSアスカ	54:33.07

女子個人ロードレース (101.6km)

1	TANG Kerong CHN	2:55:23
2	HSIAO Mei Yu TPE	2:58:43
3	STEFANSKAYA Natalya KAZ	2:58:43

- 5 西 加南子 千葉 FOCUS 2:58:43
15 萩原麻由子 大阪 CB あさひ 3:01:08

女子個人タイムトライアル (20.4km)

- 1 TANG Kerong CHN 28:32.30
2 NONTASIN Chanpeng THA 29:26.03
3 ANDREICHENKO Marina KAZ 30:05.79
5 萩原麻由子 大阪 CB あさひ 30:32.04

男子スプリント

- 1 AWANG Azizulhasni MAS
2 渡邊 一成 JPCA 福島
3 BAO Saifei CHN
5 柴崎 淳 JPCA 三重

男子1kmタイムトライアル

- 1 HAN Tao CHN 1:04.910
2 TISIN Mohd Rizal MAS 1:05.759
3 WONG Kin Chung HKG 1:07.064
5 深谷 知広 JPCA 愛知 1:07.831

男子ケリツ

- 1 渡邊 一成 JPCA 福島
2 MOHAMED SUFIAN Mohd Hafiz MAS
3 PARASH Mahmoud IRI
深谷 知広 JPCA 愛知 1 回戦敗退

男子4km個人追抜競走

- 1 LI Wei CHN 追抜勝
2 TUYCHIEV Viadimir UZB -
3 FENG Chun Kai TPE 4:51.174
佐々木 龍 神奈川 早稲田大学 DSQ

男子スクラッチ (15km)

- 1 SOHRABI Mehdi IRI
2 CHERNYSHOV Ilya KAZ
3 WONG Kam-Po HKG -1lap
5 窪木 一茂 福島 日本大学 -1lap
6 盛 一大 愛知 愛三工業 -2laps

男子ポイントレース (30km)

- 1 TUYCHIEV Viadimir UZB 74p
2 盛 一大 愛知 愛三工業レーシング 71p
3 KWOK Ho Ting HKG 54p
12 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大学 4p

男子ムロム

- 1 KWOK Ho Ting HKG 11
2 WU Po Hong TPE 16
3 佐々木 龍 神奈川 早稲田大学 17

男子マディン

- 1 ホンコン・チャイ 15p
2 日本 盛・伊藤 (-1lap) 18p
3 カザフスタン (-2laps) 15p

男子チームスプリント

- 1 マレーシア 47.580

- 2 イラン 48.087
3 中国 47.840
4 日本 浅井・柴崎・深谷 48.490

男子団体追抜競走

- 1 中国 4:22.290
2 イラン -
3 カザフスタン 4:32.190
5 日本 伊藤・窪木・佐々木・高田 4:35.107

女子500mタイムトライアル

- 1 GONG Jinjie CHN 36.207
2 LEE Wai Sze HKG 36.659
3 MUSTAPA Fatehah MAS 37.665
8 石井 寛子 茨城 スパ・K 39.240

女子スプリント

- 1 ZHENG Lulu CHN
2 GONG Jinjie CHN
3 MUSTAPA Fatehah MAS
6 石井 寛子 茨城 スパ・K アスリートクラブ

女子ケリツ

- 1 ZHENG Lulu CHN
2 石井 寛子 茨城 スパ・K アスリートクラブ
3 MANEEPHAN Jutatip THA

女子3km個人追抜競走

- 1 WU Chaomei CHN 追抜勝
2 和田見里美 鳥取 中央大学
3 NONTASIN Chanpeng THA 4:02.649

女子スクラッチ (10km)

- 1 MENG Lang CHN
2 WONG Wan Yiu Jamie HKG
3 WICHANA Thatsani THA
11 和田見里美 鳥取 中央大学

女子ポイントレース (20km)

- 1 MENG Lang CHN 19p
2 NONTASIN Chanpeng THA 12p
3 石井 寛子 茨城 スパ・K アスリート 10p
9 和田見里美 鳥取 中央大学 2p

女子チームスプリント

- 1 中国 36.008
2 チェイニス・タイハイ 40.953
3 タイ -
4 日本 石井・和田見 DNS

第16回アジア・アジア自転車競技選手権大会 (2009/8/17-20 インドネシア・カリマンタン)

男子個人ロードレース (127km)

- 1 KAMYSHEV Armen KAZ 3:23:13
2 OTHMAN Mohd Adiq Hussainie MAS 3:24:49
3 笠原 恭輔 埼玉 小松原高校 3:27:55

- 8 山本 元喜 奈良 奈良北高校 3:27:55
17 野口 裕生 熊本 九州学院高 3:29:10

男子個人タイムトライアル (20.4km)

- 1 CHEUNG King Lok HKG 26:32.60
2 FOMINYKH Daniil KAZ 26:37.00
3 DRONIN Roman UZB 26:59.35
7 山本 元喜 奈良 奈良北高 27:49.56
8 笠原 恭輔 埼玉 小松原高 28:21.56

男子スプリント

- 1 SON Gyeong Su KOR
2 和田真久留 神奈川 湘南愛輪会
3 KIM Hee Jun KOR
4 木村 弘 青森 八戸工業高校

男子1kmタイムトライアル

- 1 SON Gyeong Su KOR 1:07.227
2 HSU Wei Hsiang TPE 1:10.471
3 MORSHEDLOO Ali IRI 1:11.586
5 坂本 周輝 青森 八戸工高 1:12.367

男子ケリツ

- 1 SON Gyeong Su KOR
2 KIM Hee Jun KOR
3 Zaid Mohd Farhan Amri MAS
4 木村 弘 青森 八戸工業高校
坂本 周輝 青森 八戸工業高 1 回戦敗退

男子3km個人追抜競走

- 1 CHEUNG King Lok HKG 3:38.203
2 PARK Keon Woo KOR 3:43.433
3 野村 厚貴 鹿児島 南大隈高 3:44.510

男子スクラッチ (10km)

- 1 CHEUNG King Lok HKG
2 笠原 恭輔 埼玉 小松原高校 -1lap
3 OTHMAN Mohd Adiq Hussainie MAS -1lap
5 野口 裕生 熊本 九州学院高校 -1lap

男子ポイントレース (15km)

- 1 山本 元喜 奈良 奈良北高校 42p
2 CHOI Ki Ho HKG 29p
3 ZAHAROV Artyom KAZ 25p
8 笠原 恭輔 埼玉 小松原高校 3p

男子チームスプリント

- 1 大韓民国 48.967
2 日本 坂本・木村・和田 50.114
3 マレーシア 50.807

男子4km団体追抜競走

- 1 カザフスタン 4:39.372
2 大韓民国 4:44.402
3 イラン 4:41.033
4 日本 坂本・野村・山本・笠原 4:42.883



個人ロード 3位の笠原



ポイント優勝の山本



スプリント 2位の和田

文部科学大臣杯 第65回全日本大学対抗選手権大会

男子総合、日本大学27連覇!

KEIRIN 00

この大会は競輪の補助金を受けて実施されました



インカレのチームスプリント優勝、日本大学チーム



団体追抜優勝の日本大学(写真は予選のゴール)

大学自転車競技最大の大会である“インカレ”が、天候に恵まれた中、修善寺で開催された。近年、大会数の増加を通じて、学生競技者のレベルアップへ向けた取組みを実施しているが、各種目好記録ラッシュに、その効果が表れて来ているものと思われる。また、一部の強豪校だけでなく、トラックの朴(富士大)やロードの西園(東京大)など、新たな有力選手が登場したことで、今後さらに混戦による競技力向上が楽しみである。

そうした中でも、男子総合では予想通り日本大学が着実に対抗得点を重ね、男子総合27連覇という偉業が達成された。一方の女子は、北京五輪代表の和田見(中京大)の復活や、ロードで近年着実に力をつけてきた明珍(朝日大)の活躍が見られたが、女子総合では短距離から長距離まで非常に選手層の厚い鹿屋体育大学が他校を圧倒し、6連覇を達成した。(倉田 達樹)



女子チームスプリント優勝の鹿屋体育大学

女子 500mTT 優勝の前田



女子 3km 個人追抜優勝の和田見



4km 個人追抜優勝の穂苅



1kmTT 優勝の朴



ケイリン優勝の石倉 (右から 2 番目) 写真は予選



女子ポイントレース、先頭が優勝の和田見 スプリント優勝の朴 (左) 写真は 1/8 決勝



男子ロード優勝の西園



女子ロード優勝の明珍

第65回全日本大学対抗選手権自転車競技大会
(2009/8/27-30)
静岡・日本CSC・北400/5kmサーキット

男子スプリント

- 1 朴 敏午 岩手 富士大学
- 2 阿部 力也 宮城 日本大学
- 3 古庄 豊全 熊本 日本大学
- 4 新納 大輝 鹿児島 鹿屋体育大学
- 5 佐々木吉徳 秋田 明治大学
- 6 後藤 裕貴 兵庫 法政大学

男子1kmタイムトライアル

- 1 朴 敏午 岩手 富士大学 1:05.832
- 2 櫻井 正孝 宮城 東北学院 1:06.622
- 3 我妻 敏 福島 日本大学 1:07.203
- 4 奥原 亨 神奈川 中央大学 1:07.396
- 5 横関 裕樹 岐阜 朝日大学 1:08.067
- 6 新納 大輝 鹿児島 鹿屋体大 1:08.252

男子ケリソ

- 1 石倉 龍二 和歌山 日本大学
- 2 野口 大誠 熊本 中央大学
- 3 櫻井 正孝 宮城 東北学院大学
- 4 大久保光次 鹿児島 鹿屋体育大学
- 5 横関 裕樹 岐阜 朝日大学
- 6 今井 一誠 東京 早稲田大学

男子4km個人追抜競走

- 1 穂苅 大地 新潟 法政大学 4:47.738
- 2 佐々木 龍 神奈川 早稲田大 4:48.865
- 3 井関 太一 岐阜 朝日大学 追抜勝
- 4 石田 正樹 青森 中央大学 -
- 5 高橋 翔太 岐阜 日本大学 4:54.038
- 6 福田 高志 兵庫 大阪経大 4:57.462

男子ポイントレース(40km)

- 1 湯浅 徹 千葉 明治大学 25p
- 2 加藤 良治 岐阜 順天堂大学 24p
- 3 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大学 24p
- 4 佐々木 真 青森 法政大学 21p
- 5 兼平 純 岩手 日本大学 18p
- 6 入部正太郎 奈良 早稲田大学 17p

男子タテムスプリント

- 1 中央大学 石田・巴
- 2 朝日大学 大場・山田
- 3 順天堂大学 井手・木村
- 4 日本大学 紅谷・山崎
- 5 早稲田大学 安福・今井
- 6 明治大学 神・田澤

男子チームスプリント

- 1 日本大学 我妻・阿部・古庄 1:16.553
- 2 鹿屋体大 大久保・吉田・新納 1:17.793

- 3 早稲田大 安福・澤口・今井 1:18.083
- 4 中央大学 奥原・野口・巴 1:19.234
- 5 日本体大 野村・東森・古河 1:19.208
- 6 朝日大学 山田・吉田・尾形 1:19.559

男子4km団体追抜競走

- 1 日本大 我妻・坂本・窪木・高橋 4:30.001
- 2 法政大 一戸・川本・穂苅・佐々木真 4:35.901
- 3 朝日大 井関・河合・武田・横関 4:28.621
- 4 早稲田 十時・續谷・入部・佐々木龍 4:28.976
- 5 鹿屋体 伊藤・野中・高宮・野口 4:30.687
- 6 順天堂 半田・山地・藤村・加藤 4:34.707

女子500mタイムトライアル

- 1 前田佳代乃 兵庫 鹿屋体育大 36.762
- 2 近藤 美子 愛知 鹿屋体育大 38.664
- 3 松本 世良 鳥取 順天堂大学 38.864
- 4 古河 麻美 福島 日本体育大 39.193
- 5 田中 まい 千葉 日本体育大 39.706
- 6 松尾 智佳 愛媛 松山大学 40.670

女子スプリント

- 1 前田佳代乃 兵庫 鹿屋体育大学
- 2 近藤 美子 愛知 鹿屋体育大学
- 3 松本 世良 鳥取 順天堂大学
- 4 濱田 瞳 青森 法政大学
- 5 古河 麻美 福島 日本体育大学
- 6 松尾 智佳 愛媛 松山大学

女子チームスプリント

- 1 鹿屋体育大学 前田・近藤 58.723
- 2 日本体育大学 田中・古河 59.683
- 3 立命館大学 石井・松橋 1:10.593

女子3km個人追抜競走

- 1 和田見里美 鳥取 中京大学 3:59.242
- 2 田中 まい 千葉 日本体大 4:00.331
- 3 明珍 裕子 岐阜 朝日大学 4:06.650
- 4 川又 千裕 鹿児島 鹿屋体大 4:09.649

- 5 木村 亜美 香川 鹿屋体大 4:11.139
- 6 田中 舞 東京 立教大学 4:21.737

女子ポイントレース(16km)

- 1 和田見里美 鳥取 中京大学 26p
- 2 近藤 美子 愛知 鹿屋体育大学 22p
- 3 田中 まい 千葉 日本体育大学 9p
- 4 木村 亜美 愛知 鹿屋体育大学 8p
- 5 明珍 裕子 岐阜 朝日大学 8p
- 6 川又 千裕 鹿児島 鹿屋体育大学 6p

男子個人ロードレース(140km)

- 1 西園 良太 鹿児島 東京大学 4:18:50
- 2 高橋 将輝 茨城 日本大学 4:18:50
- 3 早川 朋宏 愛知 法政大学 4:18:51
- 4 青柳 憲輝 栃木 法政大学 4:19:00
- 5 野中 竜馬 広島 鹿屋体育大 4:19:14
- 6 福田 高志 兵庫 大阪経大 4:19:29
- 7 越海 誠一 大分 日本大学 4:21:07
- 8 高宮 正嗣 鹿児島 鹿屋体育大 4:21:45
- 9 榎本 剛士 和歌山 日本大学 4:21:46
- 10 中田 匠 岩手 日本大学 4:21:48

女子個人ロードレース(60km)

- 1 明珍 裕子 岐阜 朝日大学 2:09:39
- 2 木村 亜美 愛知 鹿屋体育大 2:09:39
- 3 田中 舞 東京 立教大学 2:09:39
- 4 早坂ありさ 宮城 鹿屋体育大学 -1lap

男子大学対抗得点

- 1 日本大学 81点
- 2 法政大学 47点
- 3 鹿屋体育大学 44点

女子大学対抗得点

- 1 鹿屋体育大学 58点
- 2 日本体育大学 21点
- 3 朝日大学 16点



松倉 信裕

マツカレ / プロ

UCI 国際コミッセール
JCF1 級公認審判員
日本学生自転車競技連専務理事

UCIのコミッセールとして各国の大会で活躍する。
また学連の専務理事として、ロードレース大会の
活性化、都内での新規ロードレースの開催などに
尽力する。

(写真は日本CSCのインカレでの一コマ。) 敬称略



2009年UCIサイクルサッカー・ワールドカップ大分大会

金剛東京 3位入賞!



日本での開催は3年ぶり、5度目となるワールドカップは、5カ国10チームが参加して、東九州の中核都市、大分市のコンパルホール室内競技場において8月9日に開催された。

アジア地域外からの2チーム(ヨーロッパ枠)を除くアジア枠8チーム中、日本は世界選手権大会上位の成績を残しているため、開催地特権のワイルドカード出場チームを含む5チームが出場。他に中国香港2チーム、マレーシア1チーム、そしてヨーロッパ枠としてワールドカップシリーズに参戦しているRV Obernfeld(ドイツ)とRV Dornbirn 1(オーストリア)が出場、年度末の決勝大会を目指し熱戦が繰り広げられた。

昨年のワールドカップ決勝大会で

優勝候補のAltdorf(スイス)を破った金剛東京(木下・松田)チームに期待がかかったが、RV Obernfeld(ドイツ)とRV Dornbirn 1(オーストリア)が難なく決勝に進出。前半2-0とリード

したObernfeld(ドイツ)が、4-2で優勝した。

金剛東京は予選Bグループで力の差を見せつけ、グループ2位で準決勝へ。一方、予選Aグループの日本チーム(フジ、ASICS、蔵前)は普段から対戦して相手の戦法をお互い熟知してか、星の潰し合い。その中で最近力をつけてきたSCAA香港がグループ2位となり準決勝へ進出。昨年アジア大会で香港を破り優勝している、C.C.K.サンディーズかせだ(手島・現王園)の不参加が惜しまれる。

準決勝第1試合

金剛東京はRV Obernfeld(ドイツ)から3点を奪う實力を見せたが、スピードのある欧州の、高いレベル同士の試合に慣れているObernfeldが

9-3で勝利。

準決勝第2試合

RV Dornbirn1が、SCAA香港との實力の差を見せつけるかのように9-0で勝利。

3-4位決定戦

金剛東京対SCAA香港は、ゴールの奪い合いとなったが、世界選やワールドカップ決勝で経験豊富な金剛東京が、終始冷静なプレーで7-5と勝って3位入賞を果たした。

その他

日本の若手のホープ、大阪大学の田中・三須チームは金剛東京と同じ予選Aグループと組み合わせにちょっと不運な面もあったが、Dornbirnを相手に2ゴールを奪う好試合を見せ今後の成長が期待される。(佐藤 康彦)

【競技結果】

2009年UCIサイクルサッカー・ワールドカップ大分大会(2009/8/9 大分・大分)

- | | | |
|---|-------------------------------|-----|
| 1 | RV Obernfeld | |
| | Kopp, Manuel / Kopp, André | GER |
| 2 | RV Dornbirn | |
| | Lingg, Martin / Köck, Patrick | AUT |
| 3 | 金剛東京 | |
| | 木下 直也 / 松田 鋼 | JPN |

国内自転車競技場の紹介(その1)

静岡県・日本サイクリススポーツセンター (Tel: 0558-79-0004) / 日本競輪学校 (Tel: 0558-79-0111)

〒410-2402 静岡県伊豆市大野1826

① 北400メートルピスト(日本CSC)

周長: 400m
幅員: 9.7 ~ 13.2m
カント(最大): 31° 8' 24"



② 333メートルピスト(日本CSC)

周長: 333.3m
幅員: 10.0 ~ 13.5m
カント(最大): 33° 50' 22"

③ 250メートルピスト(日本CSC)

周長: 250m
幅員: 7m
カント(最大): 44° 59' 00"



④ 南400メートルピスト(競輪学校)

周長: 400m
幅員: 9.7 ~ 13.2m
カント(最大): 31° 8' 24"

<④は原則として一般の方はご利用できません>



夏休み最後の週末、恒例となったシマノ"スズカ"ロードが三重県鈴鹿サーキットで開催された。10月に3年ぶりのF1日本グランプリ開催のため各施設がリニューアルされ、昨年とはかなり印象がちがう。

大会2日目の午後、「シマノ鈴鹿国際ロード」が10周(58.21km)で行われた。

途中、全日本チャンピオン西谷(愛三)などの単独アタックもあったが、最終的に決まったのはレース後半の13人(スキル5、シマノ3、愛三2、BS2、マトリックス1)の逃げであった。

最終周回その中から抜け出したのはスキルシマノのKoen de Kortとシマノレーシングの阿部崇之の2名、そして両手を挙げてフィニッシュラインを通過したのはKoen de Kortであった。



ツールドフランス帰りの別府

13人の逃げ集団



途中逃げる愛三の西谷



【競技結果】

第26回シマノ鈴鹿国際ロードレース大会
(2009/8/30 三重・鈴鹿)

男子個人ロードレース(58.21km)

- 1 Koen de Kort Skil Shimano 1:17:21.40
- 2 阿部 崇之 シマノレーシング 1:17:23.41
- 3 Floris Goesinne Skil Shimano 1:17:38.74
- 4 別府 史之 Skil Shimano 1:17:40.14
- 5 鈴木 真理 シマノレーシング 1:17:40.60
- 6 涌本 正樹 マトリックス 1:17:40.73
- 7 飯島 誠 チームBSアンカー 1:17:40.88
- 8 綾部 勇誠 愛三レーシング 1:17:45.77
- 9 Albert Timmer Skil Shimano 1:18:04.84
- 10 野寺 秀徳 シマノレーシング 1:18:06.75

1位のKoen de Kort。チャンピオンの陰に2位の阿部が隠れる



アンチドーピング についての基礎知識 その1



使用医薬品リスト

今年度の本連盟アンチドーピング委員会の方針として、日本国内で行われる国内、国際大会に出場する選手全員に使用医薬品リスト（健康補助食品等を含む）の提出をお願いしている。一番の目的は、大会に出場する選手自身が使用する医薬品や治療に関心を持って欲しいこと。併せて指導、監督する立場にある関係者にも、選手がどのようなものを使用しているかを把握して欲しいからである。手続きとしてはその用紙に必要事項を記入するだけのことであるが、重要なことは、それぞれの選手がスタート前72時間以内に使用した医薬品名または治療を受けた内容を申告する欄に、医薬品名や治療内容等を正確に記入することである。

意識の違い

外国選手と日本人選手、エリート選手とそれ以外のレベルの選手を比較すると、やはり使用医薬品についても明確に言えることがある。端的に言うと、外国人やエリート選手の方が、後者より使用した医薬品について正確に覚えている。先日、外国でのドーピング検査の際に、検査員が申告された医薬品のスペルを誤って記載し、外国人選手から指摘があり訂正した事例があった。エリート選手は検査を受ける機会が多いことから使用医薬品の名前や使用量を正確に覚えているというだけでなく、医薬品使用に対する意識の違いがその差にでると思われる。医薬品の多くは自分の口から体内に入ることから慎重に取り扱って頂きたい。

講習会開催の必要性

ドーピング違反行為は、他の競技規則違反と異なり、競技会への出場停止など競技人生にまで影響が及ぶため、細心の注意を払って欲しいと願っている。残念ながら、これまでも本連盟登録競技者数名が違反行為で処分されている。競技者ライセンスにはドーピング検査を受けることの義務がうたわれているが、連盟として、はたしてどれほどの内容を競技者に伝えているのだろうか。選手の中にはドーピング検査について勉強してみたいと思っている選手がいるかも知れない。選手に参加を義務付けるような講習会では肩苦しいだけで終わってしまうかもしれないが、指導者には、ある程度出席を義務付けるような講習会開催が必要な時期に来ていると痛感する。日頃感じている疑問や質問を直接講師に尋ねることのできる講習会は貴重である。今後、開催実現に向けて関係各位と検討したいと考えている。

(JCF アンチ・ドーピング委員 坂本 陽一)

加盟団体だより (1)

大阪府自転車競技連盟

大阪車連は全国的で、JCF選手登録数は各車連の中で2位、審判員は最多、第1級も最多数となっています。但し高齢化が進んでいます。元々自転車業界色の強い地盤にあって、連盟の構成も輪界色が強く残っています。

自転車の仕事、何より自転車が好きって感じです。

古くは国際サイクルロードレース大阪大会から現在のツアー・オブ・ジャパンに至る27年の永きに亘り、トップクラスの大会の競技を受け持ったおかげで、多くの経験を積む事が出来ました。

裾野の拡大を目指す大阪車連のロード大会は、クローズドサーキットの舞洲などに限られ、コンピニ感覚の当日エントリーやWエントリーも可能な施設有効利用のダブルコースで、今では実業団と共催になり参加者も増加し、定期的に春・秋の開催でホビーのキッズからマスター、登録選手の各カテゴリーまで実施できるようになりました。それもWebsite開設のメリットが大きい様です。

来年3月には大阪府橋下徹知事の発声で、(仮称)大阪サイクルイベントが第2京阪道路の開通に合わせて実施され、「大阪は元気やでえ」を全国に発信します。大阪車連も実行面で一役を担う事になり、今回限りにならない様に努力する事が大切でしょう。嬉しい多忙が続きます様に願っています。(理事・事務局長 吉井 猛) photo: Hideaki Takagi



競技大会 結果

大会名、チーム名等については略して記載

MTB Jシブ J1XCO#6白馬さのさか (2009/8/1-2 長野・白馬)

XCO 男子11ト (33.6km)

- 1 山本 幸平 長野 BSアンカー 1:50:13.72
- 2 小野寺 健 京都 Subaru 1:53:58.07
- 3 Cooper Dylan兵庫 TREK 1:55:04.05
- 4 竹之内 悠 京都 TREK 1:55:44.02
- 5 門田 基志 愛媛 GIANT 1:57:43.54
- 6 平野 星矢 長野 Bikeranch1:57:52.38
- 7 山本 和弘 東京 キャンテール1:58:08.52
- 8 斉藤 亮 長野 Corratec2:00:12.21
- 9 江下健太郎 長野 モトクロス 2:00:22.44
- 10 大江 良憲 神奈川 チームホシ 2:02:55.08

XCO 女子11ト (24.0km)

- 1 片山 梨絵 神奈川 スペシャリスト 1:53:50.90
- 2 田近 郁美 岐阜 God Hill 1:58:20.98
- 3 中込由香里 長野 SY-Nak 1:59:36.11
- 4 矢沢みつみ 山梨 Corratec2:07:43.28
- 5 山本 佳苗 岡山 BMC 2:09:10.49
- 6 島袋 怜 愛知 ANDEN 2:12:57.38
- 7 Henderson Rebecca AUS TREK -1lap
- 8 原田 彩子 東京 TeamFITTE -2laps
- 9 渡辺 キャリー 長野 Sweet Riders -2laps
- 10 荻真 賢美 岡山 Team クルース -2laps

MTB1-ス・クロスカトリ-JxXCO白馬さのさか (2009/8/8-9 長野・白馬)

XCO 1-ス男子 (13.00km)

- 1 横山 航太 長野 更北中学 43:36.11
- 2 岡本 隼 神奈川 左近山中 44:48.33
- 3 山本 兆 北海道 創成高校 46:27.16
- 4 江越 岳也 神奈川 ProRide 46:35.06
- 5 木村 裕己 北海道 東海四高 48:39.13
- 6 日野林雄大 愛媛 松山工高 49:19.10
- 7 渡辺 一皓 千葉 宣田中学 49:25.59
- 8 榎本 一輝 東京 国立高校 51:41.88
- 9 西田 尚平 北海道 滝川高校 54:19.22

XCO 1-ス女子 (10.40km)

- 1 岩出 愛未 愛知 Aki Jr 43:10.15
- 2 黒田 彩夏 兵庫 江井島中 46:02.27

第40回全日本実業団東日本自転車競技大会 (2009/8/8-9 長野・松本かりがね)

男子スプリント

- 1 片寄 雄己 静岡 マットローチェ ARIAKE
- 2 和田真久留 神奈川 湘南愛輪会
- 3 古川 宗行 茨城 スーパー-K アスリートクラブ
- 4 河村 雅章 東京 スーパー-K アスリートクラブ
- 5 鈴木 庸之 JPCA SoulBicycle 弥彦
- 6 水野 悟志 静岡 マットローチェ ARIAKE

男子1kmタイムトライアル

- 1 下沖 功児 宮崎 湘南愛輪 1:06.495
- 2 片寄 雄己 静岡 マットローチェ 1:07.378
- 3 鈴木 庸之 JPCA SB 弥彦 1:09.652
- 4 大村 慶二 東京 フジパレンティニ 1:09.714
- 5 山崎 潤 神奈川 フジパレンティニ 1:09.883
- 6 落合 達彦 静岡 マットローチェ 1:09.973

男子ケリッ

- 1 市川 英昭 神奈川 湘南愛輪会
- 2 森 俊文 愛知 Club SENSATIONS
- 3 河上 陽一 千葉 チームフェア
- 4 北川 光治 静岡 ミソノレーシングチーム
- 5 大村 慶二 東京 フジパレンティニ
- 6 武田 雄大 新潟 SoulBicycle 弥彦

男子4km個人追抜競走

- 1 辻本 翔太 千葉 ハーリスミ 4:59.646
- 2 山口 忠行 広島 サイクルラス 5:00.856
- 3 下沖 功児 宮崎 湘南愛輪 4:59.401
- 4 大川 雅継 千葉 チームフェア 5:02.855
- 5 栗田 雄矢 静岡 マットローチェ 5:04.321
- 6 吉井 功治 JPCA 東京マシソン 5:06.118

男子リミネーション

- 1 圓谷 崇 新潟 チームフェア 45p
- 2 山口 忠行 広島 チームサイクルラス 34p
- 3 高橋 仁 千葉 チームフェア 12p
- 4 和田 治恭 愛知 ハーリスミ 11p
- 5 上田 隆 岐阜 MINOURA 大垣 R. 10p
- 6 森 俊文 愛知 Club SENSATIONS 9p

男子ポイントレース (30km)

- 1 圓谷 崇 新潟 チームフェア 45p
- 2 平塚 吉光 静岡 ハーリスミ 34p
- 3 渡邊 哲平 京都 カガワAS 12p
- 4 大庭 伸也 宮城 チームフェア 11p
- 5 山本 聖吾 長野 スクロレーシングチーム 10p
- 6 小段 亮 長崎 ハーリスミ 9p

男子マシソン (20km)

- 1 フェアOA 圓谷・高橋 22p
- 2 フェアOB 大庭・山本 21p
- 3 東京マシソン 吉井・柳沢 14p
- 4 カガワAS 小原・渡邊 9p

男子チームスプリント

- 1 マットローチェ 山河・落合・片寄 1:04.381
- 2 湘南愛輪会 下沖・亀谷・土谷 1:07.199
- 3 フェアOB 高橋・河上・大川 1:08.205
- 4 B-SOUL 幅・岡林・寺澤 1:11.856
- 5 フェアOA 尾上・越猪・林 1:11.989

男子4km団体追抜競走

- 1 ハーリスミ 小段・辻本・檜山・平塚 4:40.909
- 2 チームフェア 圓谷・高橋・大庭・山本 4:41.165
- 3 フジパレンティニ 善波・山崎・阿部・大村 4:44.440
- 4 マットローチェ 栗田・宗野・水野・山河 4:54.789

女子500mタイムトライアル

- 1 和地 恵美 神奈川 たかだフルト 39.870
- 2 濱田 真子 東京 湘南愛輪会 40.724
- 3 大塚 沙織 大阪 Comrade 41.307
- 4 三宅 悠里 愛知 Z-1Medalist 41.678
- 5 堀 友紀代 神奈川 ReadyGoJ 42.642
- 6 和田 里沙 神奈川 湘南愛輪会 43.696

女子ケリッ

- 1 濱田 真子 東京 湘南愛輪会
- 2 堀 友紀代 神奈川 Ready Go Japan
- 3 大塚 沙織 大阪 Team Comrade
- 4 小谷 翠 愛媛 NCFR

- 5 三宅 悠里 愛知 Z-1MEDALIST.RC
- 6 尾上 明子 愛知 チームフェア

女子3km個人追抜競走

- 1 豊岡 英子 大阪 パナニックL 4:00.188
- 2 濱田 真子 東京 湘南愛輪会 4:12.650
- 3 大塚 沙織 大阪 Comrade 4:13.641
- 4 堀 友紀代 神奈川 ReadyGoJ 4:29.006
- 5 小谷 翠 愛媛 NCFR 4:35.480
- 6 尾上 明子 愛知 チームフェア 4:36.415

第44回全国都道府県対抗自転車競技大会 (2009/8/16-18 秋田・大潟/六郷)

成年個人タイムトライアルロードレース (30km)

- 1 丸山 英将 埼玉 40:48.470
- 2 広瀬 敏 石川 41:16.713
- 3 井関 太一 岐阜 41:46.796
- 4 山根 理史 島根 42:26.896
- 5 善波 昭 東京 42:43.901
- 6 伊藤 翔吾 広島 43:05.258
- 7 福田 高志 兵庫 43:07.617
- 8 池浦 敏彦 新潟 43:16.338
- 9 井上 卓 秋田 43:33.555
- 10 山田 哲治 高知 44:01.548

少年個人タイムトライアルロードレース (20km)

- 1 椿 大志 東京 27:23.705
- 2 長瀬 幸治 埼玉 28:00.394
- 3 徳田 鍛造 京都 28:01.226
- 4 倉林 巧和 群馬 28:54.172
- 5 板橋 義浩 青森 28:55.287
- 6 中野 俊喜 愛媛 28:56.148
- 7 稲垣 智仁 愛知 29:17.258
- 8 清水 恒太 石川 29:42.124
- 9 細川竜太郎 香川 29:47.016
- 10 柴崎 俊祐 山口 29:51.925

女子個人タイムトライアルロードレース (15km)

- 1 豊岡 英子 大阪 22:00.782
- 2 井上 玲美 東京 22:09.546
- 3 明珍 裕子 岐阜 23:33.545
- 4 星川恵利奈 香川 24:24.193
- 5 岩田 知夏 京都 24:41.682
- 6 堀川すみれ 群馬 24:55.676
- 7 鈴木 遊 鳥取 25:18.176
- 8 武田 和佳 埼玉 25:32.434
- 9 神田 紗希 鹿児島 25:37.034
- 10 森 沙耶香 大分 25:38.991

男子スプリント

- 1 藤井 栄二 兵庫
- 2 魚屋 周成 大分
- 3 岡田廉太郎 高知
- 4 橋本 凌甫 東京
- 5 丸山 昌茂 新潟
- 6 佐々木吉徳 秋田

成年男子1kmタイムトライアル

- 1 櫻井 正孝 宮城 1:06.873
- 2 萱島 大介 大分 1:08.969
- 3 横関 裕樹 岐阜 1:09.325
- 4 大村 慶二 東京 1:10.687
- 5 福井 敬司 鳥取 1:10.689
- 6 矢野 賢児 高知 1:10.697

少年男子1kmタイムトライアル

- 1 池野 健太 兵庫 1:09.080
- 2 佐藤 光成 秋田 1:10.243
- 3 浜地 一徳 京都 1:10.267

4	小池 悠太	埼玉	1:10.463
5	碓 優太	福井	1:10.704
6	諏訪 晃弘	栃木	1:11.286

成年男子ポイントレース (30km)

1	圓谷 崇	新潟	48p
2	大西 周太	兵庫	28p
3	西山 知宏	福井	19p
4	大庭 伸也	宮城	19p
5	山口 忠行	広島	16p
6	井上 卓	秋田	16p

少年男子ポイントレース (24km)

1	大中 巧基	京都	46p
2	小澤 大樹	長野	16p
3	倉林 巧和	群馬	15p
4	前園 浩平	愛媛	8p
5	坂田 康行	福島	8p
6	三浦 康嵩	青森	7p

男子チームポイント

1	大分 萱島・後藤・魚屋	1:04.730
2	秋田 佐々木・石川・佐藤	1:05.395
3	東京 大村・福山・橋本	1:07.273
4	高知 矢野・山本・岡田	1:08.223
5	新潟 圓谷・丸山・武田	1:07.572
6	兵庫 大西・藤井・池野	1:07.599

男子 4km 団体追抜競走

1	岐阜 横関・井関・渡邊・吉田	4:32.022
2	京都 浜地・大中・西沢・梅原	4:32.276
3	愛媛 高須賀・中野・前園・日野林	追抜勝
4	長野 篠原・檜山・長幅・小澤	-
5	愛知 今井・長尾・稲垣・安藤	4:54.931

女子 500m タイムトライアル

1	白井美早子	京都	38.677
2	野村くるみ	石川	39.218
3	杉澤 彩	静岡	40.736
4	丸田 京	東京	40.806
5	越田恵美子	石川	40.918
6	岩出 愛未	愛知	41.332

女子ポイントレース (16km)

1	豊岡 英子	大阪	49p
2	井上 玲美	東京	37p
3	針谷千紗子	栃木	19p
4	明珍 裕子	岐阜	7p
5	森 沙耶香	大分	4p
6	岩田 知夏	京都	3p

男子総合成績

1 京都 41点 2 東京 40点 3 大分 38点

女子総合成績

1 東京 19点 2 大阪 16点 3 京都 15点

2009年世界マウンテンバイクマラソン選手権大会
(2009/8/23 オーストラリア・スタテック)

男子 MTB マラソン (103.9 km)

1	PAULISSEN Roel	BEL	4:34:36.8
2	LAKATA Alban	AUT	4:35:28.1
3	SAUSER Christoph	SUI	4:39:16.6
85	松本 駿	長野 TREK	5:49:25.1
91	山田大五郎	福岡 福砂屋	5:52:47.7

MTB Jシリーズ J2 XCO・DHI箱館山
(2009/8/29-30 滋賀・高島)

XCO 男子ポイント (35.0km)

1	斉藤 亮	長野 Corratec	1:49:49.85
---	------	-------------	------------

2	松本 駿	長野 TREK	1:49:52.13
3	江下健太郎	長野 トクウス	1:56:50.07
4	山田 主	長野 GEAX	1:57:56.69
5	大江 良憲	神奈川 チームシ	2:00:11.23
6	鈴木 良則	東京 スパイクス	2:00:49.18
7	伊澤 優大	滋賀 岩井商会	2:01:54.36
8	門田 基志	愛媛 GIANT	2:02:39.01
9	大西健一郎	京都 岩井商会	2:03:20.18
10	久保 伸次	京都 岩井商会	2:04:57.24

XCO 女子ポイント (25.0km)

1	岩出 愛未	愛知 Aki Jr	1:52:43.43
2	西尾 美子	香川 焼鳥山鳥	1:57:35.58
3	光田 真基	三重	-1lap
4	三宅 理子	大阪 岩井商会	-3laps

DHI 男子ポイント

1	浅野 善亮	愛知 Transition	3:37.035
2	黒沢 大介	東京 Fust	3:40.343
3	赤堀 吉功	岐阜 Velo	3:48.215
4	山口 弘貴	岐阜 システム	3:48.215
5	辻本 秀信	大阪 日本アルミ	3:52.101
6	三谷 賢一	京都 Think	3:52.213
7	山田 基史	愛知 王様ゲーム	3:53.717
8	志賀 孝治	山口 VAN	3:54.514
9	牧野 将勅	兵庫 あじさい	3:54.823
10	三輪 隆文	新潟 アウトドア専	3:55.644

DHI 女子ポイント

1	宮下 瑠衣	兵庫	4:27.297
2	木下 論子	奈良 zone KKF	4:41.454



林 辰夫

ハツタツ

シリーズひと②

UCI 国際コミッセール
JCF1 級公認審判員
日本自転車競技連盟監事

日本初のUCIコミッセールとして先陣を切り、後進の道筋をつくる。

アジア各国との密接な関係を作りあげ、またオリンピック・世界選等でコミッセールとして活躍する。(写真はシマノ鈴鹿ロードでの一コマ。) 敬称略

2009年マウンテンバイク世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2009年マウンテンバイク世界選手権大会

開催場所 オーストラリア・キャンベラ

大会期間 2009年8月30日～9月6日

派遣期間 2009年8月28日～9月7日

代表選手団

監督 西井 匠 (JCF MTB 小委員会)

メカニック 仁木 康夫 (JCF 強化スタッフ)・阿部 吉邦 (大阪・シマノ)

選手

■ダウンヒル (DHI)

男子ポイント 永田 隼也 (神奈川・YETI/FFC)

女子ポイント 末政 実緒 (兵庫・Fun Fancy/INTENSE)

飯塚 朋子 (大阪・team corrateg)

男子ジュニア 清水 一輝 (愛知・AKI FACTORY TEAM)

井本はじめ (東京・Transition Racing)

九島 賛汰 (神奈川・KHS/重力技研)

■フォークロス (4X)

男子 永田 隼也 (神奈川・YETI/FFC)

清水 一輝 (愛知・AKI FACTORY TEAM)

女子 末政 実緒 (兵庫・Fun Fancy/INTENSE)

■クロスカントリー (XCO)

男子ポイント 山本 幸平 (北海道・チームプリヂストン・アンカー)

辻浦 圭一 (奈良・チームプリヂストン・アンカー)

小野寺 健 (北海道・SUBARU GARYFISHER)

女子ポイント 片山 梨絵 (神奈川・SPECIALIZED)

男子 U23 平野 星矢 (長野・BIKERANCH)・竹之内 悠 (京都・TREK)

合田 啓祐 (香川・Team クルーズ)

女子 U23 埜真 賢美 (岡山・Team クルーズ)

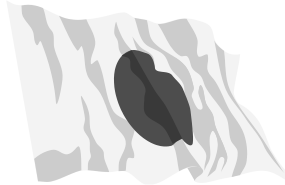
男子ジュニア 山本 兆 (北海道・ダンガリー)

2009年ロード世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2009年ロード世界選手権大会
 開催場所 スイス・メンドリジヨ
 大会期間 2009年9月23日～27日 派遣期間 2009年9月21日～29日
 代表選手団
 監督 高橋 松吉 (JCF強化コーチ) コーチ 柿木 孝之 (JCFロード部会支援スタッフ)
 メカニック 鬼原 積 (JCF強化スタッフ) マッサージ 石田 宗男 (JCF強化スタッフ)
 選手
 男子E170 新城 幸也 (沖縄・Bbox ブイグテレコム)・別府 史之 (JPCA・スキル・シマノ)
 西谷 泰治 (愛知・愛三工業レーシングチーム)
 男子U23 小森 亮平 (広島・TREK-LIVESTRONG U-23 TEAM)・平塚 吉光 (静岡・パールイズミ・スミタ・ラバネロ)
 伊丹 健治 (群馬・チームブリヂストン・アンカー)

2009年世界マウンテンバイク・マラソン選手権大会 日本代表選手団

大会名 2009年世界マウンテンバイク・マラソン選手権大会
 開催場所 オーストリア・スタテッグ
 大会期間 2009年8月23日 派遣期間 2009年8月19日～25日
 選手
 男子E170 山田大五朗 (福岡・福砂屋/FUJI)・松本 駿 (長野・TREK)



日本新記録

■ 500m

女子ジュニア 36秒111 前田 佳代乃 (兵庫・鹿屋体育大学) 2009/08/11 ロシア・モスクワ

■ チームスプリント・250m×2

女子シニア 38秒891 日本 (石井 寛子・和田見 里美) 2009/08/15 インドネシア・カリマンタン

連盟の動き (8月上旬～9月上旬)

8月6日	平成21年度第4回広報部会	於：東京・日本自転車会館3号館3階
10日	09アジア選手権日本選手団出発	於：インドネシア→帰国22日
25日	ジュニアロード強化合宿	於：福島・泉崎周辺(～28日)
28日	09マウンテンバイク世界選手権日本選手団出発	於：オーストラリア→帰国9/7
9月6日	平成21年度第4回ジュニア強化育成部会	於：東京・日本自転車会館3号館3階

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< JCF オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.162 2009年9月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯 昭一

編集人/井関 康正

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-3 日本自転車会館内

TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>